

新刊紹介

「松本平の植物 2021」

横内文人著 クラフト舎 2021 年発行
2 名の方から紹介いただいた。

本書は長野県植物研究会で長きにわたり活動し貢献されてきた横内文人先生が、松本平の植物について解説されたものである。A 4 版で、内容は「Ⅰ松本平の植物図鑑」「Ⅱ松本平（旧・市町村別）の植物目録」からなる。Ⅰでは身近な人里の植物が 311 種選ばれ、生育地、特徴などが写真とともに簡潔にわかりやすく紹介されている。Ⅱでは文献をもとに右のような旧・市町村別の植物目録が作成され、レッドリスト情報、文献情報等が付加されている。合わせて現地調査も実施し補完された。調査の採集標本は信州大学、長野県環境保全研究所、安曇野市豊科郷土博物館に納められている。

【入手方法】 ゆうちょう銀行・口座番号 00570-0-54132(右詰)・口座名称 横内文人・金額 2420 円 (送料は著者負担)

(紹介者：松田貴子)

松本平の正確な定義はないが、本書では、旧の松本市、塩尻市、大町市、東筑摩郡、南安曇郡、北安曇郡の範囲としてある。著者は長年、当地の植物調査や文献資料の収集を重ね、その膨大な資料の蓄積をもとに、その集大成として本書を出版し、当地の

植物相、分布の全容を明らかにしている。本書は 2 部に分かれ、第 1 部は松本平に普通に見られる植物を外来種も含めて約 300 種取り上げた植物図鑑である。これは一般読者が本書を参考にして身近な植物を知ることができる。第 2 部は松本平の植物目録で、旧市町村誌の植物目録を、ない地域は長野県植物誌資料集（2007）等を参考に、また著者の最近の調査資料を追加してまとめられている。植物はアイウエオ順に並べられ、その植物の存否が各地域の一覧表に提示されている。いわゆる分布図でなく分布表である。ここまで一人でまとめるのは大変な労力であり、著者の長年の緻密かつ濃密な調査や先代の植物研究者横内斎氏の血筋を受け継ぎ、植物や郷土に対する熱意と愛情が強く伝わってくる。本書の活用法は多々あり、また一地方だけでなく全県に及ぶものであり多くの人に活用してもらいたい。

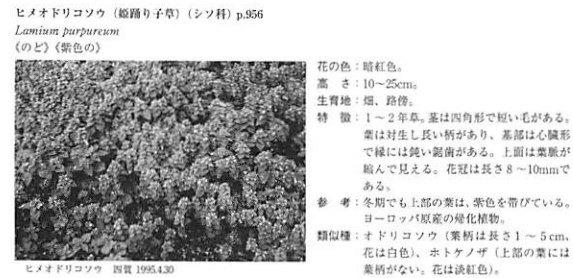
A 4 版 187 頁。2021 年発行。¥ 2200(税込 2420 円)

(紹介者：土田勝義)

「諏訪教育博物館所蔵植物標本目録，上巻・下巻」

諏訪教育会編集発行 2021 年発行 上巻 252pp, 下巻 pp253-575.

本書は諏訪教育博物館に所蔵されている 26,383 点の植物標本を目録としてまとめたもので、科名、種名、採集年月日、採集者などが記録され、表形式で表されている。諏訪教育会は諏訪の自然研究に取り組み、昭和 56(1981)年に「諏訪の自然誌 植物編」を刊行した。会の活動を指導した、長野県植物研究会会員の故今井健樹先生が寄贈した 2403 点の標本も含まれる。また、明治 40 年から 42 年にかけて採集された 3053 点の標本もあり、多くは 1960 年代から 1970 年代に採集されたもので、「諏訪の自然誌 植物編」編纂の際に作成された。標本はおおよそ科ごとに整理された棚 (no.1-38) に収蔵されて



「松本平の植物 2021」より (松田)

ア

アイ	小谷	..	..	..	..	美麻	..	徳高	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	四賀	..	..	朝日	..	..	※ アイタデ
アイアスカイノデ	..	白馬	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	松本	..	..	塩尻	..	..
アイイタドリ	..	..	..	松川	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	SS3-157 イタドリ×オオイトドリ
アイズシモツケ	小谷	白馬	大町	..	..	..	..	豊科	堀金	三郷	梓川	安曇	..	飯井	麻績	..	..	生坂	..	四賀	松本	..	..	..	..	..	..
アイズスゲ	..	..	..	..	..	..	..	豊科	..	三郷	梓川	安曇	..	麻績	..	..	..	..	..	..	..	松本	..	..	塩尻	..	..
アイダクダ	小谷	..	..	..	..	..	..	..	..	三郷	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	松本	..	..	..	..	+
アイダコブナグサ	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	+
アイダヤマツツジ	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	四賀	..	..	..	..	+
アイツヤナシノデ	..	白馬	大町	..	..	美麻	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	ツヤナシノデ×サカゲイノデ
アイヌソモソモ	小谷	白馬	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	A CR エノソモソモ、タチヤマイチゴフ
アイヌタチツボスミレ	..	白馬	..	..	..	..	..	徳高	..	..	..	安曇	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	..	CR

「松本平の植物 2021」より (松田)

いる。別途寄贈された今井健樹標本は、11 個の箱に収められている。【入手方法】諏訪教育会へ残部の有無をお問い合わせください。

(紹介者：大塚孝一)

「長野県栄村誌自然編」

栄村誌編纂委員会編集 栄村発行 2022 年 2 月 1 日発行 218 頁

本書は、地形・地質、気象・気候、陸水、植物、動物の項目からなる。植物は本研究会会員の井田秀行と大塚孝一が執筆した。当初、栄村出身の新潟大学名誉教授の石澤進先生が担当であったが、亡くなったことで急遽二人が代役をつとめた。栄村の植物・多様性と特徴、森におおわれる栄村、栄村を特徴づけるブナ林、栄村を特徴づける植物（雪国に特有な植物・人里の植物・山地の植物・湿地の植物・希少な植物・帰化植物・シダ植物等）、天然記念物等巨樹、野々海ヒメカイウ群生地、野々海ミズバショウ群落、各地の植物（野々海池・千曲川沿い・北野天満宮・小赤沢から苗場山・野反湖から切明・風穴の植物）、コラムとして栄村の植物を研究した石澤先生、の各項目でまとめられている。歴史編（704 頁）とともに出版された。一般購入はできないので、図書館等でご覧ください。

(紹介者：大塚孝一)

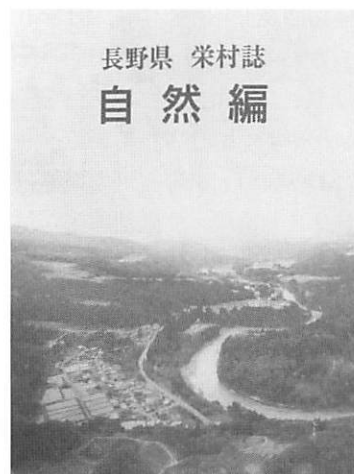
「生物哲学」(沼田真著作集第 2 巻)

沼田真著作集編纂委員会 岩田好宏編。学報社。菊版 302 頁。2021 年発刊。¥4200

植物生態学者であり 2001 年に亡くなられた沼田真先生の著作集第 2 巻である。第 1 巻は 2019 年に「自然誌の窓から」が発刊されている。本書は沼田先生の研究生活初期（1941～1949 年）の生物学理論研究関係の論文、著作をまとめたものである。すなわち学生時代から始まっている。日本における近代生物学は明治半ばから戦前までかなり発展し、様々な成果を上げていた。しかしそれらはすでに大きな成果を上げていた物理学などと異なり、理論面でいえば生気論や機械論、全体論が混在している状況で、科学的・学問的地位を確立できずにいた。物理学でいえばすでに実験物理学と理論物理学の研究の方法論が確立し、戦後すぐに理論物理学で湯川



「諏訪教育博物館所蔵植物標本目録、上巻・下巻」



「長野県栄村誌自然編」

秀樹氏がノーベル賞をもらったのである。沼田先生は若き植物研究者として、生物学や自身の研究が将来進展するためには、生物学とは何か、生物とは何かを理論的に追求し、その学の確立のために生物哲学が必要であると思われた。同時に自然界の生物を研究する中で、様々な生物が変異し、自然に適応している姿を目のあたりにし、当時紹介されつつあった量子生物学に着目し、いわゆる確率論をもって生物世界を解明し、また研究方法を求めていくという立場をもたれた。このような考えを元に理論生物学の研究に没頭され、この間、かなり難解な約 69 編の関連論文等を出されている。それ以後先生は実証的な生態学的研究において、統計的手法を駆使し、また植物の生活様式に着目し、さらに遷移論をもとに様々な生態学的研究の成果を上げられていく。先生の植物生態学的研究の発展と成果はこのような理論的背景をなくしては理解できない。本著作集をまとめられた編纂委員会のご苦勞に感謝し、紙面制約上、十分な紹介ができないことを陳謝。筆者もその教えをいっから学んだものであるが、足下にも及ばなかった。

(紹介者：土田勝義)